



森のなかま

2008年5月号

NO. 1 (継続146)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

総会開催、任意団体からNPO法人へ

事務局長 森本 正信

平成20年4月13日(日)横浜の県民センターで、標記の活動報告会とNPO法人としての通常総会が開催されました。登記上では、4月1日付けでNPO法人は成立しておりましたが、本総会をもって、名実共に島岡新体制がスタートした訳です。なお、ここで提案されたすべての議案が承認されましたことを、ご報告いたします。

ご来賓(敬称略)として、県・森林課から服部森林課長と金田副主幹、かながわ森林づくり公社から金子理事長、後藤専務理事、茂木県民運動課長と豊丸・河野の各氏、会の生みの親である七宮清氏の8名をお迎えし、私どもインストラクター会員72名、計80名の参加人数でした。

第1部は活動報告会として開催。ここでは、平成19年度の活動報告および決算、繰越金等のNPO法人への承継が提案され、承認されました。因みに承継される預金は39万円余となりました。

第2部はNPO法人として初の通常総会として開催。先ず島岡新理事長の挨拶のあと、下記の3議案が諮られ、活発なご意見も出て、有意義な総会となりました。

第1号議案 役員の選任(追加)について(敬称略)

理事として、柏倉 紘、伊藤 恭造と中島 進市の3氏が、監事として、宮本 祥行氏が選任されました。

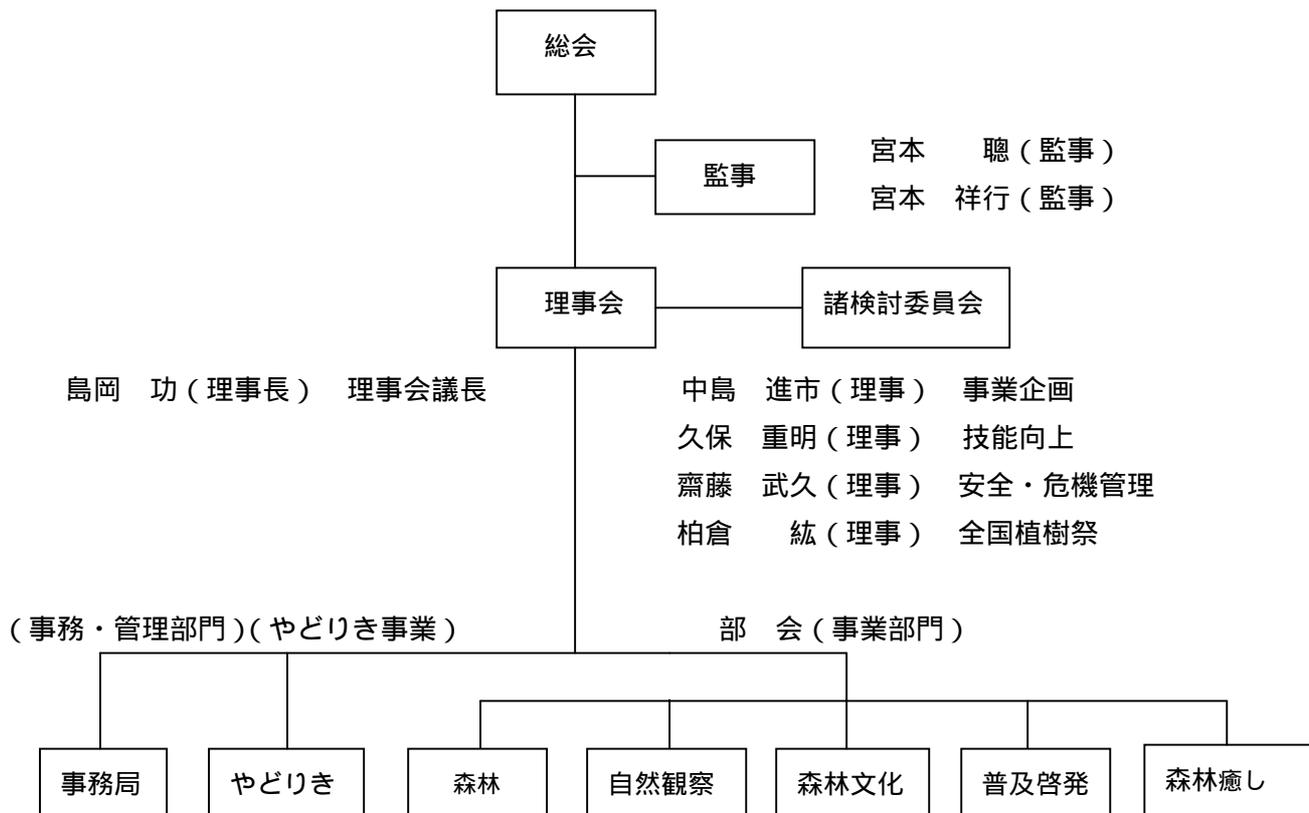
第2号議案 組織の編成について(組織図をご参照願います。)

第3号議案 平成20年度 活動計画および予算案

なお、1、2部ともに、議長を3期の清水 正己さんをお願いいたしました。

おかげさまで、何とか総会を無事にクリアすることが出来ました。以前いただいた言葉、「小さく生んで、大きく育てる」方向で、初心に返ってがんばりたいと思います。そして、NPO法人になっていて本当に良かったと思えるような事象がおきますよう祈念します。ありがとうございました。

「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」の組織と担当



事務局 (事務・管理部門)
 森本 正信 (理事) 事務局長
 伊藤 恭造 (理事) 会計部長

部会等担当 (事業部門)
 竹島 明 (理事) やどりき事業
 武川 俊二 (理事) 森林
 久保 重明 (理事) 自然観察
 篠木 明 (理事) 森林文化
 齋藤 武久 (理事) 普及啓発
 天野 里美 (理事) 森林癒し



森の仲間

「森林組合との連携構築」に期待する

飯村 武

本誌、2008年における柏倉前会長の年頭の辞は「かながわの緑を守り育てる活動に汗 創意と英知を」で、その活動方針として「行政との協働推進、企業・団体等との連携・自主活動の展開」など8項目を掲げた。それらの内の「森林組合との連携構築」である。正に時宣を得た視点として注目したい。

わが国の森林資源の現況(総面積)は、25,121千haである。その所有内訳は、国有林7,838千ha、民有林(公有、私有林等)17,283千ha、これらの内の私有林面積は、14,440千haで、総面積に占める割合は57.5%。同様にして神奈川県の場合、総面積は95,278haで、うち国有林は10,861ha、民有林は84,417(私有林は62,511)haで、総面積に占める私有林の割合は、実に66%である。これらの数値からして、国レベルでも、わが県についても森林力の去就の鍵は、私有林が握っていると言える。

私有林はその名のとおり、多くの人々が分割所有し、林業を営んでいる。これらの所有者で構成しているのが森林組合で、市町村を単位にして設置(単位森林組合)され、都道府県レベルで連合会が、そして全国森林組合連合会が組織されている。

森林組合には、いわゆる森林組合と生産森林組合(森林組合等)とがある。神奈川県の場合、前者の数は13で、組合員数は7,717人(面積41,825ha)、後者の数は57で、組合員数は4,623人(面積4,087ha)である。

森林組合等は「森林組合法」(昭和53年、法律第37号)により組織運営されている。その目的は、森林所有者の経済的社会的地位の向上、森林の保続培養と生産力の増進、もって国民経済の発展に資するとするが、その事務的活動分野は「組合員の森林経営の指導 経営目的の信託の引き受け 資金の貸付 物資の供給 種苗の採取育成 林道の設置

公衆の保健機能の増進施設 組合員の技術・情報提供など、多岐にわたる。

森林組合業務の柱は、何と言っても造林とその収穫である。加えて、住宅・製材・木工部門や森林による公衆の保健施設(キャンプ、バーベキュー等)を営む組合があるが、それらは県下では2、3にとどまっている。

わが国では、1964年に貿易が自由化された。以来、外材輸入の影響を受けて国産材の消費は減少の一途を辿り、価格は低迷を続けている。この苦渋は当然、森林・林業の最前線たる森林組合の運営を直撃している。目前にあるのは販路を待つ過熟林であり、除間伐を急ぎ立てる暗い林分である。

このような経済環境の中で、森林所有者の育林に対する自助努力には当然限度がある。しかし、森林には厳然として公益的機能がある。これが山村の今日的素顔であるが、その公益性を思えば、活性化は一刻もゆるがせに出来ない。当面の対策としては次のようなことが考えられようか。

森林の健全育成のための間伐の条件整備 過熟林の収穫と間伐材の利用促進 森林施業のための路網整備 持続的発展を期しての意欲ある林家の育成 林家・森林組合の競争力増進のための経営規模の拡大 森林環境教育・健康づくりなど魅力ある山村づくりなどなど。

森林組合は、以上に集約される地域の森林・林業活動、ひいては地域振興の中心的担い手である。加えて、いま切実に求められている都市と山村を結ぶパイプ役でもある。今後は「森林実施計画」のプランナーとして、また木質バイオマス供給の役割が期待され、更には地球温暖化対策をも視程においての活動が求められよう。

NPO法人・かながわ森林インストラクターの会と森林組合とが連携して活動する。そこでは当然、英知が磨かれる。創意に満ちた森林力、山村力が湧いてくること必定である。現場の声、山の声を耳にしながらの両者の活動の汗によって、かながわの緑・森林がいつそう光り輝くことを期待したい。

私の認識

野鳥その57

高橋恒通

今月も亦、スズメ目カラス科の野鳥です。

留鳥または漂鳥のホシガラス(漢和名:星鴉、星鳥、英名:Nutcracker) 体長L=35cm、についてご案内いたします。

英名の“ナツクラッカー”は胡桃割器ですが、辞書には“やまがらす(欧州産)”とありました。成程、ホシガラスの分布図を見ますと、地球上ではユーラシア大陸の中緯度~やや高緯度域に分布棲息しているからです。

故にホシガラスは、北米大陸や南半球の国々には居りません。

さて、体色は 同色、頭頂は茶褐色、雨覆と風切は黒褐色、その他は茶褐色の地に白斑があるように見えます。但し、胸前だけは白斑の方が支配的で、寧ろ白地に茶褐色の縦斑がある様にさえ見えます。

何はともあれ、この白斑と見えるのは、各羽の軸斑が白色の為なのであり、これを“星”に見立てて、“星鴉”と名前が付いた事は想像に難しくありません。

我国でホシガラスは、亜高山から高山の針葉樹林帯で主に棲息しているものと認識しております。そして、繁殖期以外は単独で生活し、針葉樹の種子を定まった場所に運んで採食すると言われていましたし、カケスの貯食行動と同じように地中や樹洞に貯めたりもするそうです。

私がホシガラスを目の当たりにした最初の場所は、北八ヶ岳の白駒池に通じる山道の右側斜面に、私の感覚からすれば奇跡的と思える這い松地帯でした。今から19年前の事です。

記憶を辿って、そのときの状況を少し詳しく説明しますと、先ず東京は山の手線と中央線の地図をイメージして下さい。その山の手線の部分の内側が這い松帯、外側はオオシラビソやシラビソ等々亜高山~高山帯の針葉樹、そして中央線に相当する部分が、這い松帯を2分する一本の細い山道で、直径が100m弱位の楕円の斜面空間です。突然、黒い影が眼前を横切り、足元から約3~4m位の処の這い松に止まりました。これがホシガラスです。



私達(鳥友と3人)は一瞬フリーズになりましたが、ホシガラスの方は我々に警戒する様子もなく、小声で呟く様に“キュキュ...”と発声していましたが、時間にして20秒位経過した頃に、何を思ったか飛び立ち30~40m位離れた斜面上手の這い松に止まりました。今度は我々は双眼鏡で観たのですが、背を向けて止まったので顔が見えませんでした。誰かが「正に星鴉だネ」とポツリと呟き、全員で頷いたのでした。

私の印象では、キジバトをスマートにして嘴を少し太目に、そして長くした感じに思えました。飛び方も翼をあまりバタつかせずにフワフワと飛んだ様に見えました。

ホシガラスは人間に対する警戒心が比較的に薄弱的な野鳥、例えば身近な冬鳥のジョウビタキの様な野鳥だと私は認識しております。

ご愛読の同志の方で、これから北八ヶ岳の白駒池に出掛ける機会があれば必ず這い松帯に行かれると思います。その時にはホシガラスの存在に留意してみてください。運が良ければ逢うことが出来るかも判りません。

これは余談ですが、私の独断と偏見に裏打ちされた感覚では、冬場に、焦茶無地のコートで、ホシガラスの体色柄のマフラーを使って、颯爽と青山か六本木を歩く女性が居たら、必ず多くの人の注目を浴びること間違い無いと思います。或いは、ホシガラスの体色柄の女性用雨傘を何処かの雨具メーカーが発売すれば結構売れると私は思います。

<参考資料>

・日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7、写真・解説/叶内哲哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説(鳴声)/上田秀雄、山と溪谷社

世界の人口をざっと60億としたとき、20億は食べ過ぎ、20億は普通、残りの20億は飢えている、という資料を見たことがあります。

私たちは、毎日の暮らしのなかでは、あまり気にかけていないのですが、今でもまだ多くの人が、飢える心配をしているのだと解ります。しかし、自分が食べられてしまうということを恐れる人は、今や、いないでしょう。

人間以外の生きものの世界では、事情が全く逆です。彼らはすべて自分の子孫を残すために生きていますが、その目的に向かって、動物は懸命に食べ、同時に、自分が食べられてしまわないように必死に逃げます。植物は、光と水を求めて熾烈な争いを繰り広げています。同時に、自分が食べられないようにするため、防御用の物質を作ります。

自分が食べているのは他の生きもの、つまり命なのだという事もついつい忘れがちです。食べているものが命だと思えば、美味しいとか不味いとか、のんきなことは言ってもらえません。

また、数字は覚えていませんが、食べ残したものや野菜クズなど、日本で生ゴミとして捨てられる食料品は、信じられないほど膨大な量になるそうです。

いろいろな意味で、食という文化を、もっともっと大事にしていきたいですね。

さて、野のもので、私が一番美味しいと思うものの一つはクワです。

昔、シャツを汚しながら頬張ったクワの実の甘酸っぱい味が忘れられず、今でも毎年一度か二度は、この味を楽しむため里山を歩きます。

殆どの本では、クワについては、実と養蚕と材のことしか書かれていませんが、今回は葉が主役です。

クワは、場所によるのか木によるのか、葉のサイズや形が大きく変わります。ヤマグワよりマグワのほうが美味しいと言われますが、この二つは私には区別が付きません。ものの本には花柱の長さが違う云々と書いてあるのですが...



ヤマグワ：有田保彰

要は、裂れこみのない、大きくて円い、濃い緑になる前の柔らかい若緑色の葉が狙い目です。

卵を入れない衣を薄くつけた天ぷらを、たれではなく塩で食べるのが最高です。友人に紹介したら大好評でした。そのうちの一人が、他の地方でクワの葉を食べるかどうか、彼の友人や知人に聞いてくれました。昔は、あたりまえのように食べた、あるいは今でも食べる、という人はかなりの少数派でした。こんなに美味しいものがどうしてあまり食べられていないのか、不思議なくらいです。天ぷらの他にもたくさん食べ方があると思いますが、私たちは天ぷらがとても美味しいので、桑の葉茶以外は、あまり試したことがないのです。

私は、カフェインを摂ると眠れなくなる質で、夕刻はお茶の類いやコ-ヒー、チョコレートを口にできず、何を飲むかいつも悩みの種です。そこで、重宝するのが桑の葉茶です。漢方薬の匂いが少ししますが悪くはありません。

クワは、根の皮、実、枝そして葉は、桑白皮、桑椹などの名で生薬として利用され、また癖のない工作材としても使われて、全体が無駄なく使える優れたものです。

(つづく)

本の紹介

原寸図鑑 ののはなさんぽ
- 多摩丘陵のいちねん -

絵と文 五味丘 玖子



朝日新聞の東京地方版で紹介されてた本です。多摩ニュータウン周辺の路傍の草本植物図鑑です。

特徴は2つあります。1つは総て手書き彩色の見開きと手書きモノクロの見開きが交互になっていて、モノクロは自由に彩色できるようになっている。

2つ目は視覚的に似通っていれば在来種・外来種を問わずに並列表示がしてある。散策の途中で立ち止まって調べるのもよし、彩色するのもよし。



左は「堇(スレ)」の項で路傍で見られるものを並列に並べてあり、「見分けるポイント」を短いことばで挿入してある。

これには、下手な蒔蓄を傾けられるよりよほど納得がいく。本の構成は草本ばかり141種を「春」、「夏」、「秋」、「冬」でなされている。



左は「エンドウ」の頁でありモノクロである。タイトルが「揃いました野原のエンドウ三兄弟」とあり、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサと

並べてあり、自分で色鉛筆を持つて彩色しつつ、本の左下に巻きひげや種子で種の同定が出来るようにコメントがついている。

色鉛筆の塗り方のこつも文中に書き込まれているので安心して観察がてら彩色できるよう気遣われている。著者は30年前に多摩に移られてデザインの仕事の経験を活かしてボランティアで近傍の草花の手作りの新聞作成から、このような本にまとまった紹介されている。

(けやき出版 1,300円+税 堤・記)

進化する“みどりの香り”
その神秘性に迫る

畑中颯和著

あるセミナーで司会者が著者の講演に先立ち、「たかが青葉アルコール、されど青葉アルコール」と演者の研究を紹介した。その通り、著者は50年間に亘って、植物が放つ“みどりの香り”の研究一筋で、天然物有機化学研究の一領域を築いたのである。

著者が最初に奉職した京都大学の武井三吉教授により、地産の銘茶「宇治茶」の若葉から放たれる“さわやかな香り”の成分の探求が、この研究の端緒になったとのことである。その香りの正体の一つは、炭素数6個の「ヘキセノール」という無色透明の揮発性精油成分と同定され、武井三吉教授により「青葉アルコール」と命名された。その後、山口大学に転任した著者は、香りの正体が「青葉アルコール」を含む、炭素数6個でよく似た化学構造を持つ、8つの化合物からなる複合の香りであることを発見した。これら8つの化合物は、緑茶独特の香りの成分という事ではなく、高等植物の葉っぱの表面にある葉緑体膜から生成する脂肪酸(リノレイン酸、リノール酸)が外部からの刺激に応じて、これらの8化合物を分解生成し、組み合わせと濃度を変えて、それぞれ独特の香りを放散するという事を明らかにし、総称して「みどりの香り」と称した。

何のために「みどりの香り」を放散するかについて、声を出せない植物が、植物同士の会話、また、植物、昆虫、細菌の三者間の共存のための情報交換、外敵の攻撃に対する防御・免疫など植物の生存のために放散するのである。他に「みどりの香り」の人に対する官能、ストレス解消、疲労回復効果等についてもデータを示して解説している。

一方、葉や樹幹から放散される、フィトンチッドとも言われるテルペン類などの生成は、光合成産物のブドウ糖を起源とする二次代謝物で、最近では、テルペン類などの生成に「みどりの香り」が司令塔として働いている事がわかってきた。そしてテルペン類と「みどりの香り」の協奏曲が「森の香り」であると解説している。樹木のつくり出す天然化学成分とその効用について、この道の権威である谷田貝先生により本誌に連載いただいており、私たちインストラクタにとって、“森林浴”、“フィトンチッド”、“アロマセラピー”などという熟語は、大変馴染み深く身近な言葉となっている。

専門的に過ぎる面もあるが一読をお勧めしたい。
発行所：フレグランスジャーナル社 (03)3264-0125
168頁文庫本 2008年2月発行 1400円(本体)
(4期：宮本 聡)

活動短信

小田急のんびりハイク&ウォーク
(しだれ桜の里コース)

日: 4月5日(土) 8時30分~15時

場: 秦野駅~横野入口~白泉寺~県立秦野戸川公園
~西山林道~四十八瀬川・黒竜の滝~三廻部林道~土佐原遊歩道~岡部枝垂れ桜~宇津茂・寄
~新松田駅

参: 682名(申込760名)

主: 小田急電鉄・秦野市・松田町
(協力: 神奈中・富士急湘南バス)イ: 高橋恒、宮本聡、森本、須長、山崎、
加藤滋、久保、海野、福原

春は全ての生物が蘇える。山野の樹木や草花も芽を出し、可憐な花が私達の目を楽しませてくれる。陽の光は柔かく、心地良い温もりを伝えてくれる。

今回の小田急のんびりハイク&ウォークで森林インストラクターが同行し、自然観察を行いながらの企画は、初めての試みという事でした。臨時バス単位に参加者を募り、横野バス停から20分程で白泉寺に。白泉寺は、曹洞宗永平寺派の禅寺で、境内には枝垂れ桜(寺では、エドヒガンシダレザクラ)樹齢120~130年、94年前に植えられた染井吉野、4m以上もあるような大きな土佐水木などを観て、寺を後にする。

メジロやウグイスの声を聞きながら戸川公園へ。ムラサキケマン、ヒメオドリコソウ、ツクシなどが迎えてくれる。まもなく風の吊り橋(長さ267m、高さ35m)の上に出る。ここで小休止した後、農道から西山林道へ。ミミガタテンナンショウ、マメザクラ、林道脇の水溜りにはヒキガエルの卵、赤い嘴のソウシチョウ(外来種)を観ることも出来て、参加者も興奮気味。

約45分で四十八瀬川・黒竜の滝に下る。ここで昼食を摂り、源蔵畑林道へと登る。斜面にはヤマドリソウが咲き誇っている。三廻部林道では、アブラチャン、ダンコウバイ、ミツマタなど黄色い花が多く見られた。林道最高点から土佐原どさばらに向う山道に入る。30分程行くと整然と刈り込まれた茶畑に出る。桜・桃が満開、長閑で桃源郷を想わせるような雰囲気。参加者から、日本にもまだこんなところもあるんだ、と感嘆の声。

遊歩道土手のカキドウシ、ニリンソウ、カテンソウなどに迎えられ、最後のポイント岡部家の枝垂れ桜に着く。

樹齢150年、樹高12m、幹回り2.5m、枝幅14mに及ぶ見事な枝振り。その他休耕地や路傍に町や地元住民が10年前から植えたという河津桜や山桜など約1000本の桜も花を付け始めていた。

今回の企画は、コース設定・当日の案内もしっかりしていましたが、私どもの下見の面で、松田町とだけでなく小田急電鉄とも運営面を含めて打合せをしていた方が良かったと思いました。増発バスの車内での事前PRなど、今後、改善していけそうです。全長12kmのコース、好天、加えてインストラクターの案内付きなど、参加者も大満足の様子でした。

(記 10期 海野)

ふるさとの森づくり運動 植樹

日: 3月22日(土) 10:00~14:00

場: 小田原市久野 塔の峰山頂付近

参: ふるさと森づくり運動実行委員会関係者、小田原市立三ノ丸小学校、久野小学校、芦子小学校児童と保護者、小田原市長、市議会議員、小田原市役所関係者、自治会関係者、財産区関係者 計175名

イ: 森田、米山、本多、山本、水津

ふるさと森づくり運動の植樹は、今年で5年目となり、昨年までの場所とは少し離れた場所の植樹会場でしたが、昨年の会場同様、急傾斜で小学生や未経験者にはとてもきつい場所での植樹でした。インストラクターの担当は、小学生50人の植樹指導でした。植樹場所は、割合平坦な場所が指定され、小学生は初めての植樹と言いながらも一生懸命に穴掘りをし、ぶな、紅葉、桜等8種類の広葉樹を植樹しました。今年は、植樹した木に記念の木札を取り付けました。

当日は、2000本の植樹をしましたが、小学生は作業終了後、傾斜地での植樹よりも、傾斜地を駆け降りたり、倒木の上に乗ったりして遊び、目を離せない一幕もありました。

植樹が終了した後、小田原市の「いこいの森」に参加者が集まり、昼食会が開催され、交流を深めました。

(記:1期 森田)

やどりき水源林
ミニガイド

4月のトピックス

・4月初めての「成長の森」見学のご家族が訪れました。家族4人で、快晴に恵まれ、爽やかな水源林の春を満喫されたことでしょう。
・春は動物の動きが活発です。カワガラスが沢筋を飛んでいます。ミソサザイの声が谷間に響いています。鹿の集団も見られます。

5月の見所・聞き所

・各種のウツギが開花します
マルバウツギ、ウツギ、ガクウツギ、ニシキウツギなど
・ジャケツイバラの黄花が見事です。
・オオルリなどの夏鳥が飛来します。

「森の案内人」情報

実施時間：毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1～2時間程度(冬季休止)
集 合：水源林入口ゲート前
内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。
参加自由、参加費無料
*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
問合せ：(社)かながわ森林づくり公社 県民運動課
Tel 0465-85-1900
●ホームページ：
http://www.ny.airnet.ne.jp/k_sinrin/
●やどりき水源林までの道順
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

野外活動や登山に絶好の季節になりました。かながわ森林インストラクターの会にご支援いただいている、アルパインツアーサービス様からハイキングツアーのご案内をいただきました。(詳細下記)

森のなかま原稿募集

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送り先

< 手書き原稿送り先 >

鈴木松弘

〒253-0062
茅ヶ崎市浜見平 16-2-401
Tel/Fax: 0467-83-8461
Mail: suzuki-m@tbc.t-com.ne.jp

< メール原稿送り先 >

【本誌】村井正孝

〒226-0002
横浜市緑区東本郷 6-22-1-420
Tel/Fax: 045-476-4112
Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038
横浜市青葉区奈良 2丁目 10-5
Tel/Fax: 045-961-6695
Mail: ik_forester@jcom.home.ne.jp

【CCで】森本正信

〒194-0001
東京都町田市つくし野 2-13-7
Tel/Fax: 042-796-6011
Mail: morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

編集後記

はからずも広報を所管することになりました。皆さまのお力を借りながら、がんばりたいと思います。会社近くの神社の暦札にこう記されていました。

「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」
(森本)

4月に入ると、海岸の松林でも「驚」の鳴き声があった。里山は一斉の春模様、自然界に暇は無い。四季を自分の体感で探り生存を計るのに懸命だ。人間界の喧噪はもう沢山だ。

(鈴木)

6年ぶりの広報担当ですが、その間の「森のなかま」の内容充実、発行部数の増加は目を見張ります。会の発展を実感するとともに、歴代の広報担当の方々のご苦労に頭が下がる思いです。

(井出)

4月末、やどりき水源林でモモンガーの糞と遭遇。荒れた人工林、それも杉林を好み、何と杉の花粉が大好物だと言う。モモンガーが増えれば花粉症がへり、手入れが行き届けばモモンガーがへる。モモンガーとの共生は悩みますねー。

(村井)

会報別冊を担当させていただきました。前任者からの引継ぎでは、皆さん限られた時間の中で精一杯の努力をされており感銘しました。原稿提出は早ければ早いほど広報は助かります。よろしく願いいたします。

(金森)

年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454
かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。
(領 価 200円 送料共)

編集人：森本正信
広報部：井出恒夫、鈴木松弘、村井正孝、金森 巖

ヤマケイ・カルチャークラブ

山岳ライター石丸哲也氏同行

「花の遠足」その時期ならではの花と軽ハイキングを楽しむバスツアーをご紹介します。

天城山とシャクナゲ 日帰り	露降大山とツツジ 日帰り	入笠山とスズラン 日帰り
出発日：5/15(木)	出発日：6/5(木)	出発日：6/19(木)
横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合	新宿駅西口が 7:30 集合	横浜駅西口天理ビル前 7:30 集合

ご不明な点がございましたら、下記まで気楽にお問合せください。



〒105-0003
東京都港区西新橋 2-8-11 第7東洋海事ビル
Tel: 03(3503)1911 info@alpine-tour.com
<http://www.alpine-tour.com>

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。